

■ 第3章 地域福祉を取り巻く現状

■第3章 地域福祉を取り巻く現状

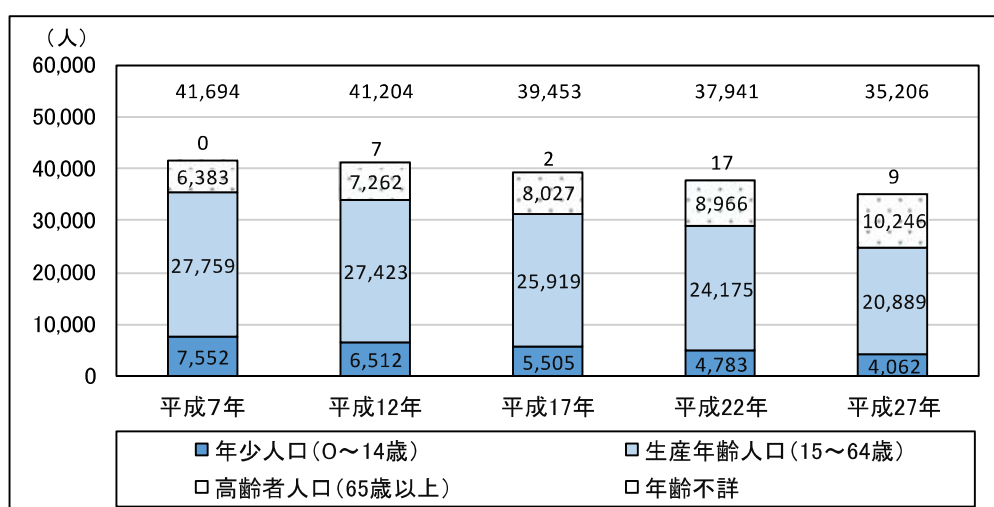
1 人口などの現状

(1) 人口の推移

◆人口の減少、少子高齢化の進行がみられる

海津市の総人口は、国勢調査によると平成7年の41,694人から平成27年には35,206人へと減少しています。年少人口及び生産年齢人口が減少する中、高齢者人口は増加傾向にあり、平成27年には29.1%と約3人に1人が高齢者となり、少子高齢化が進行しています。

図：人口の推移



資料：国勢調査(平成12年までは旧海津町、旧平田町、旧南濃町の合計値)

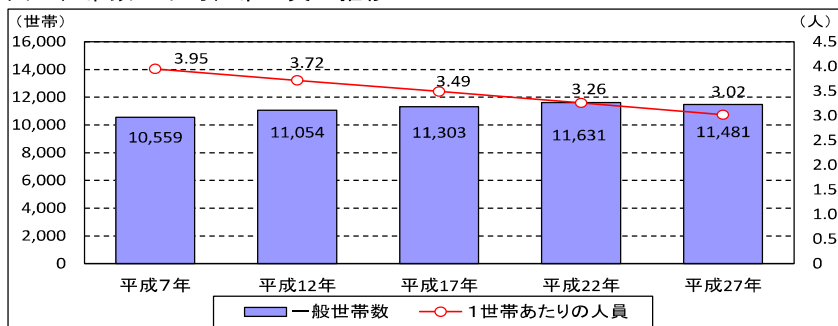
(2) 世帯の状況

◆世帯数は増加する一方、平均世帯人員は減少。高齢者単身世帯が増加

①世帯数と平均世帯人員の推移

本市における世帯数は、国勢調査によると平成7年の10,559世帯から平成27年には11,481世帯へと増加しています。しかし、1世帯あたりの平均人員は減少傾向にあり、核家族化や少子化の傾向がうかがえます。

図：世帯数と平均世帯人員の推移



資料：国勢調査(平成12年までは旧海津町、旧平田町、旧南濃町の合計値)

②高齢者世帯の推移

65歳以上の高齢者のいる世帯の推移をみると、高齢者のいる世帯が増加傾向にあり、平成27年には6,550世帯と全世帯の約5割を占めています。また、高齢者単身世帯も増加傾向がみられ、高齢者世帯の約1割を占めています。

表：高齢者世帯の推移

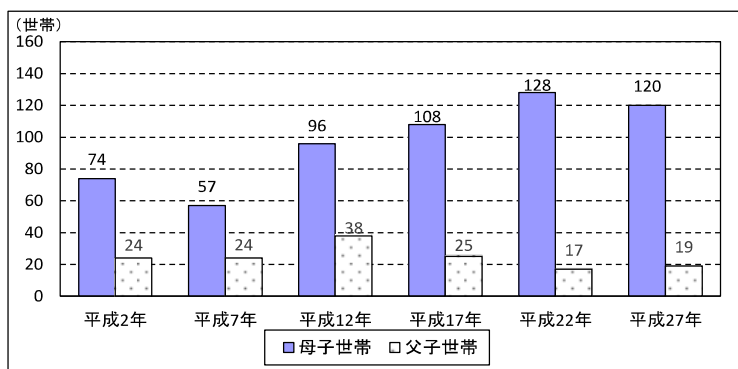
	一般世帯数合計(世帯)				
		高齢者のいる世帯		高齢者単身世帯	
		世帯数(世帯)	構成比(%)	世帯数(世帯)	構成比(%)
平成7年	10,559	4,475	42.4	250	5.6
平成12年	11,054	4,951	44.7	331	6.7
平成17年	11,303	5,332	47.1	466	8.7
平成22年	11,631	5,911	50.8	668	11.3
平成27年	11,481	6,550	57.1	850	13.0

資料：国勢調査(平成12年までは旧海津町、旧平田町、旧南濃町の合計値)

③ひとり親世帯

平成27年の国勢調査によると、本市におけるひとり親世帯数は139世帯であり、総世帯における割合は1.2%となっています。その内、母子世帯が120世帯、父子世帯が19世帯となっています。

図：ひとり親世帯の推移



資料：国勢調査(平成12年までは旧海津町、旧平田町、旧南濃町の合計値)

(3) 生活保護の状況

◆生活保護世帯数の増加傾向がみられる

平成29年4月1日現在、生活保護の被保護人員は97人、保護世帯数は85世帯となっています。生活保護の世帯類別の割合は、高齢者世帯が47世帯、傷（障）病世帯が33世帯の順となっており、保護率は2.73‰となっています。

表：生活保護の被保護人員と世帯数の推移（各年4月1日現在）

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
保護人員(人)	89	92	84	91	99	97
保護世帯数(世帯)	72	76	73	78	86	85

資料：第3期海津市地域福祉計画

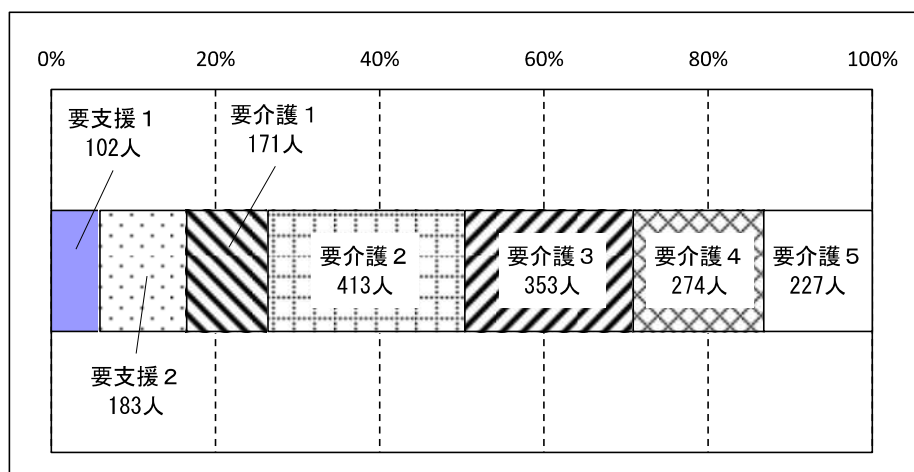
(4) 介護保険要支援・要介護認定者数

◆要介護3から要介護5の割合が約半数を占める

平成29年4月1日現在、要介護認定者（要介護1～要介護5）のうち第1号被保険者（65歳以上）は1,402人、第2号被保険者（40～64歳）は36人となっています。

また、要介護度別割合では、要支援・要介護認定者数（1,723人）のうち、要介護3から要介護5の割合が約半数を占めています。介護保険事業状況報告（平成29年3月分現在）によると、居宅介護（介護予防）サービスの利用者は、要支援認定者164人、要介護認定者873人、合計1,037人となっています。

図：要介護度別割合



資料：第3期海津市地域福祉計画

(5) 地域福祉を支える人・団体の状況

表：海津市の地域福祉を支える人・団体等（平成29年9月末現在）

人・団体等	総数	地域別		
		海津地区	平田地区	南濃地区
民生委員・児童委員	75	27	17	31
福祉推進委員	221	91	32	98
ボランティア登録団体数※1	95	32	16	45
ボランティア個人登録数	223	88	58	59
NPO法人等市民活動団体	5	1	3	1
区・自治会	175	91	32	52
地区老人クラブ	56	19	17	20
社会福祉協議会※2	1	(1)	(1)	1
地区社会福祉協議会	10	5	2	3

※1 市外1団体(18人)含む

※2 ()内支所

表：上記の人・団体等の主な活動内容

人・団体等	主な活動内容
民生委員・児童委員	相談・見守り・支援活動
福祉推進委員	見守り・支援活動
ボランティア(団体)	情報提供・福祉サービスの提供
ボランティア(個人)	情報提供・福祉サービスの提供
NPO法人等市民活動団体	生活支援・地域活動支援・福祉サービスの提供
区・自治会	自治組織相互の連絡調整・住民福祉の向上・市政への協力
地区老人クラブ	社会奉仕・健康増進活動
社会福祉協議会	地域福祉事業・相談事業・小地域福祉活動
地区社会福祉協議会	地域福祉活動

表：海津市内のNPO法人（平成29年4月1日現在）

名称	認証年月	分類
セーフティサポートコミュニティ平田	平成14年3月	地域安全活動
アクアフィールド長良	平成16年4月	学術、文化又はスポーツの振興を図る活動
まごの手クラブ	平成16年12月	保健、医療又は福祉の増進を図る活動
ゆうゆうアテンダント	平成19年3月	障がい者の自立と生きがい等を高め福祉活動の増進を図る活動
良縁の会ひまわり	平成20年3月	未婚者や再婚希望者に対して結婚相手の紹介及び相談、イベントの開催を行う

表：海津市市民活動ボランティアセンター登録団体（平成29年9月末日現在）

団体名	主な活動内容	人数
海津市赤十字奉仕団	食事サービス(調理)	89
高須喫茶ボランティア	高齢者施設の喫茶ボラ	3
海津市食生活改善協議会	食事サービス(調理)	97
田代会	レクリエーション活動	16
ひなたぼっこ	本の読み聞かせ	9
海津陶芸クラブ	食事サービス(調理)	12
わかば	食事サービス(配食)	22
さくらんぼ	食事サービス(調理)	14
AN	食事サービス(調理)	12
海津救急支援ボランティアチーム	救命講習の指導	8
ゆう・優	食事サービス(調理)	7
南濃地区民生委員児童委員協議会	地域見守り活動	31
志津新田ふれあいサロン	サロン活動	9
南濃おもちゃの図書館とろーる	おもちゃ図書館	4
エッセンス	視覚障がい者支援	4
いきいきサロン・みどり	サロン活動	9
すみれ会	車いす介助・シーツ交換	4
南濃町手話サークル	手話学習・障がい者支援	34
レッツゴー	食事サービス(配食)	10
くるま座	車いすの点検・清掃	20
みどり	食事サービス(調理)	14
みかん倶楽部	車いす介助・シーツ交換	10
ほほえみクラブ	おやつ作り	20
やまびこ	市報の音訊	9
手話サークル ゆかいな仲間たち	手話学習・障がい者支援	8
おっはーサロン	サロン活動	6
くぬぎの会	不登校・引きこもり防止	24
海津市福祉推進委員会	高齢者見守り活動	221
ガーデナー倶楽部	木曾三川公園管理維持	31
平田地区民生委員児童委員協議会	地域見守り活動	17
海津地区民生委員児童委員協議会	地域見守り活動	27
らくらくサロン	サロン活動	6
セーフティサポートコミュニティ平田	災害救援・地域安全活動	37
ほうれんそう	本の読み聞かせ	9
みのサイエンスボランティア会	工作教室	5
平田青年クラブ	防犯啓発活動	28
南濃一座	レクリエーション活動	11
志津ふれあいサロン	サロン活動	4
アジア障害者の会	発展途上国支援	1
ブックスタートボランティア	本の読み聞かせ	15
海津市更生保護女性会	地域犯罪防止活動	94
南濃北部地区防犯パトロール隊	防犯パトロール	14
奥条地区城山小スクールボランティア	児童の登下校見守り	16
海津市レクリエーション協会	レクリエーション活動	65

表：海津市市民活動ボランティアセンター登録団体（平成29年9月末日現在）

団体名	主な活動内容	人数
海津健康太極拳クラブ	健康太極拳	44
わわわ広場	子育て支援講座	8
わんぱくごっこ	清掃活動	27
ゆうゆうアテンダント	障がい児支援	11
養老鉄道を守る会“かいづ”	養老線存続活動	400
ポピーコミュニティ	不用品リユース活動	9
絵本読み語りの会	本の読み聞かせ	15
たち	子育て支援	11
住み良い地域づくりを考える会	地域見守り活動	7
寺を守る会	本堂の清掃	10
サロン山崎	サロン活動	16
真宗大谷派 大垣教務所	施設訪問活動	20
木曾三川千本松原に集う会	工作や遊びのイベント	22
なごみ	ギター演奏	4
わたげ	犯罪防止活動	3
リサイクルの環	野菜の提供	57
海津工匠組合	家具転倒防止金具の取り付け	16
かいづ国際交流の会	日本語教室(在住外国人対象)	18
海津ギター同好会	ギター演奏	17
海津青年クラブ	地域啓発活動	6
海津明るい社会づくり運動協議会	地域啓発活動	40
下多度地区社会福祉協議会	地域啓発活動	13
踊リッチかいづ	レクリエーション活動	35
ボランティア山友	清掃活動	16
フォークダンスパブリカ	レクリエーション活動	16
いきいきサロンにこにこ会	サロン活動	8
海津市フライングディスク協会	障がい者スポーツの普及	8
高齢者サポートネットワーク海津	高齢者支援	8
木曾三川千本松原を愛する会	環境保全活動	15
特定非営利活動法人 まごの手クラブ	生活サポート	36
大和田ネットワーク	地域の見守り活動	6
スマイルランボリン	障がい児支援	39
松山グリーンハイツ自主防災応援隊	地域の見守り活動	7
海津市防災士会	災害救援・地域安全活動	41
絵本であそぼっ!!実行委員会	読み聞かせ中心の公演、普及活動	21
海津市ハリヨ保存会	ハリヨ保存活動	11
かいづ介護予防リーダーの会	介護予防教室	17
非公開団体 13 団体		
合計95団体		2,919

2 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「第2次かいづあいプラン（第2次海津市地域福祉活動計画）」（平成24年度策定）の改定時期を迎え、計画を見直すため必要な基礎資料を作成することを目的として実施しました。

本年同時に改定を迎えている海津市が策定した「第2期海津市地域福祉計画」（平成24年度策定）の改定に伴うアンケート調査を協力して実施し、本計画書には、地域福祉活動計画に関する項目を掲載させていただきました。

(2) 調査の実施概要

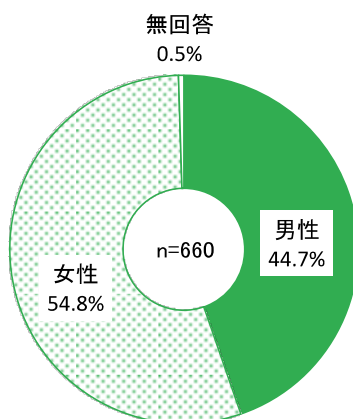
調査対象	18歳以上の市民
対象者数	2,000人
調査方法	アンケート調査 郵送による配布・回収
抽出方法	無作為抽出
調査時期	平成29年7月20日（木）～8月7日（月）

(3) 回収結果

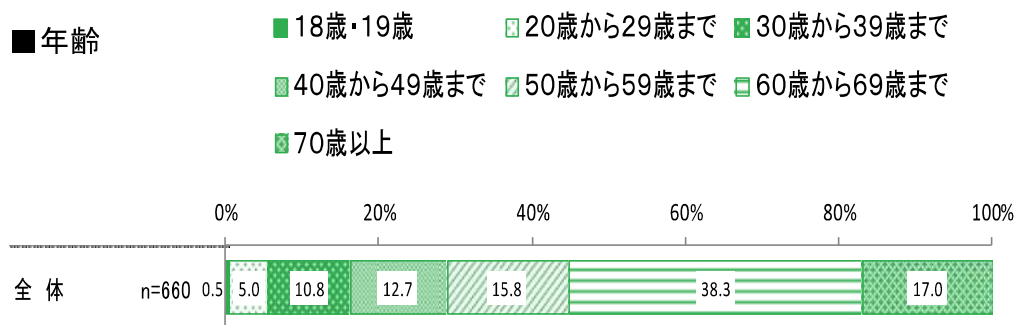
配布数	2,000件
回収数	660件
回収率	33.0%

(4) 回答者の状況

■ 性別



■ 年齢



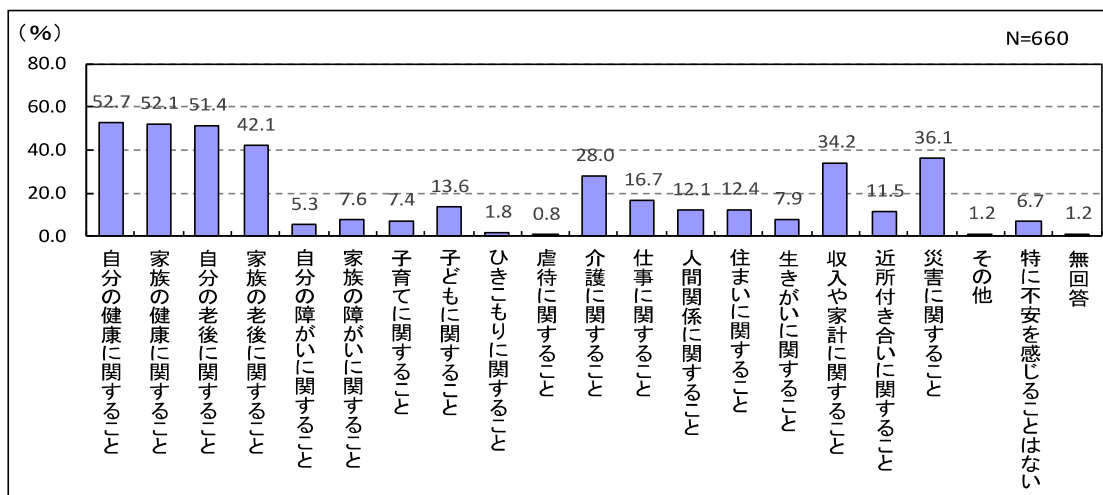
(5) アンケート調査結果概要

①毎日の暮らしの中の不安（複数回答）

◆健康や老後に関することが毎日の暮らしでの関心事

暮らしの中の不安では、「自分の健康に関すること」が最も多く、52.7%となっています。次いで「家族の健康に関すること」が52.1%、「自分の老後に関すること」が51.4%、「家族の老後に関すること」が42.1%と、健康や老後に関することが多くなっています。

次いで、「災害に関すること」が36.1%、「収入や家計に関すること」が34.2%、「介護に関すること」が28.0%の順となっています。

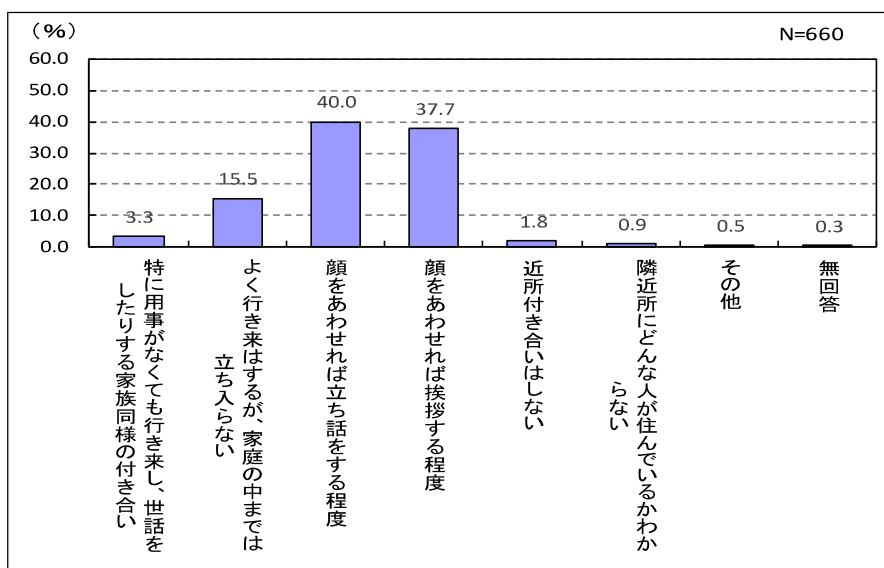


②普段の近所の人との付き合い

◆「顔をあわせれば立ち話をする程度」が4割

近所付き合いについては、「顔をあわせれば立ち話をする程度」が最も多く、40.0%となっています。次いで、「顔をあわせれば挨拶する程度」が37.7%の順となっています。

一方、「特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様の付き合い」は3.3%、「近所付き合いはしない」は1.8%、「隣近所にどんな人が住んでいるかわからない」は0.9%となっています。

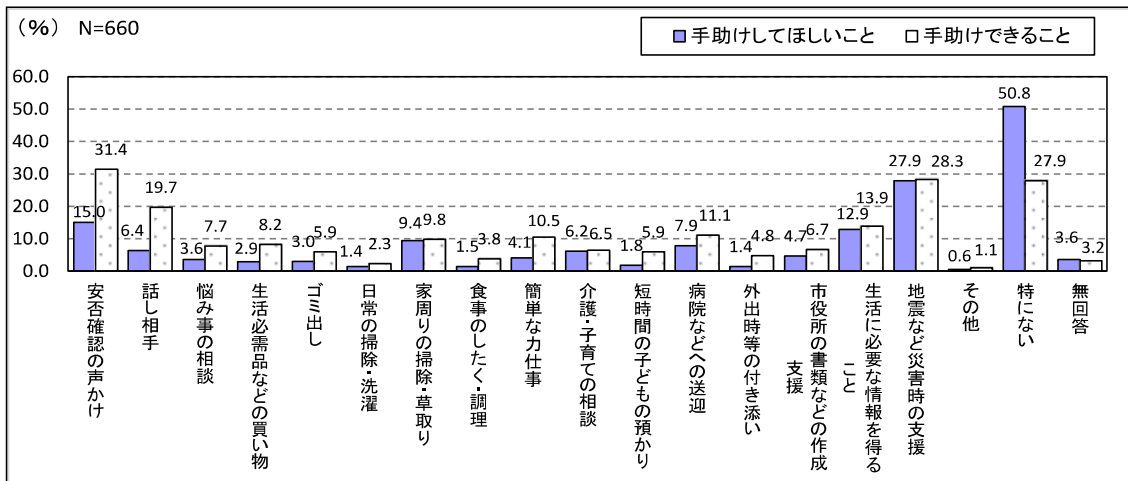


③現在手助けしてほしいこと・今後行ってみたい地域活動（複数回答）

◆「地震など災害時の支援」、「安否確認の声かけ」が挙げられている

現在手助けをしてほしいことは、「特にない」が50.8%と最も多くなっています。次いで、「地震など災害時の支援」が27.9%、「安否確認の声かけ」が15.0%の順となっています。

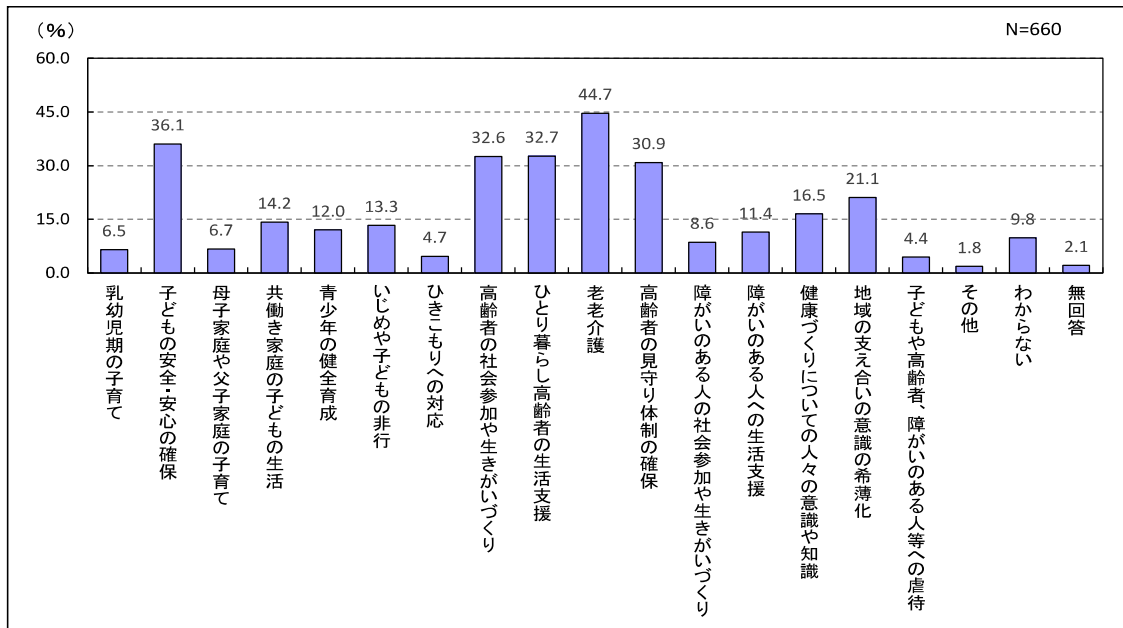
今後行ってみたい地域活動は、「安否確認の声かけ」が31.4%と最も多くなっています。次いで、「地震など災害時の支援」が28.3%、「特にない」が27.9%の順となっています。



④あなたも含めた地域住民が優先的に取り組んでいきたい課題や問題（複数回答）

◆「老老介護」が44.7%と最も多く、高齢者支援に関わる課題が多い

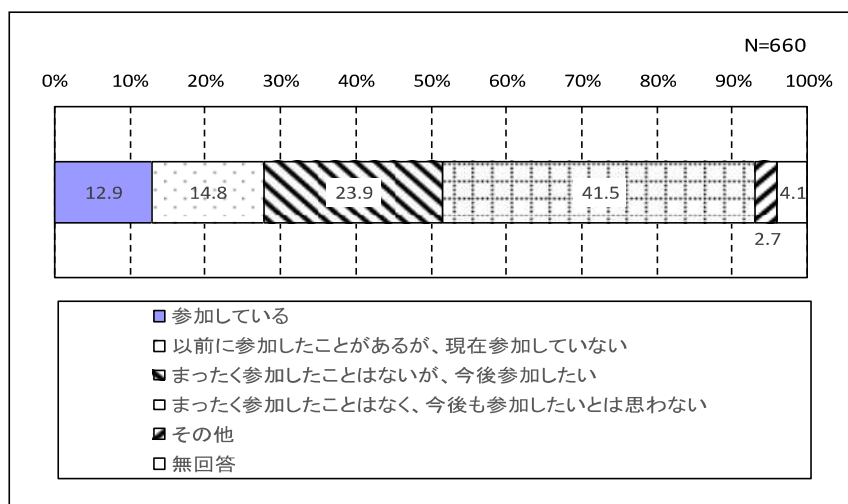
地域の課題や問題については、「老老介護」が最も多く、44.7%となっています。次いで、「子どもの安全・安心の確保」が36.1%、「ひとり暮らし高齢者の生活支援」が32.7%、「高齢者の社会参加や生きがいづくり」が32.6%、「高齢者の見守り体制の確保」が30.9%の順となっています。



⑤ ボランティア活動の参加状況

◆ 「まったく参加したことがなく、今後も参加したいと思わない」が41.5%と最も多い

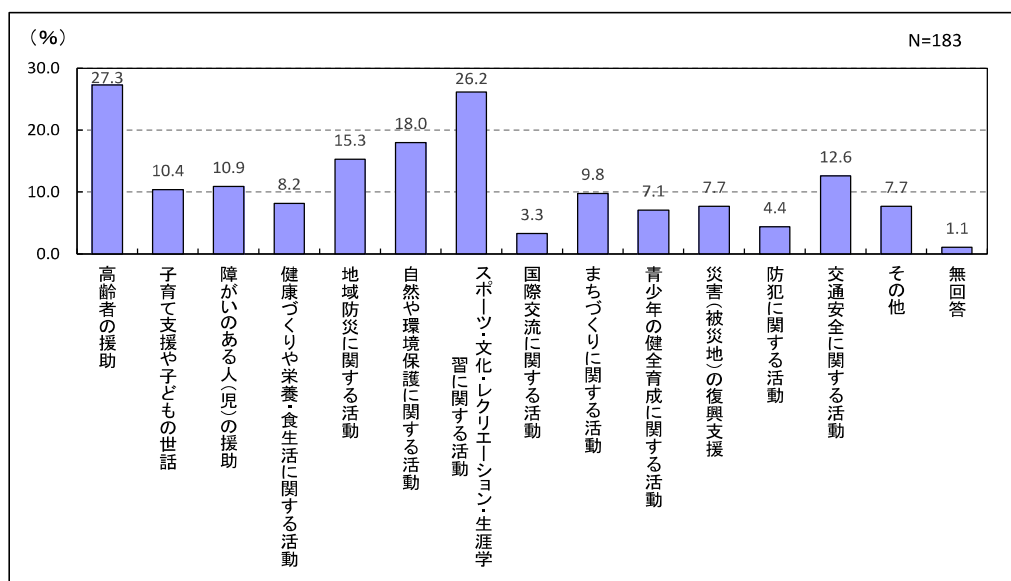
ボランティア活動に参加しているかについては、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」が最も多く、41.5%となっています。次いで、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が23.9%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が14.8%、「参加している」が12.9%の順となっています。



⑥ ボランティア活動の内容（複数回答）

◆ 「高齢者の援助」「スポーツ、生涯学習等に関する活動」が多い

どのようなボランティア活動をしてきたかについては、「高齢者の援助」が最も多く、27.3%となっています。次いで、「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が26.2%、「自然や環境保護に関する活動」が18.0%、「地域防災に関する活動」が15.3%の順となっています。

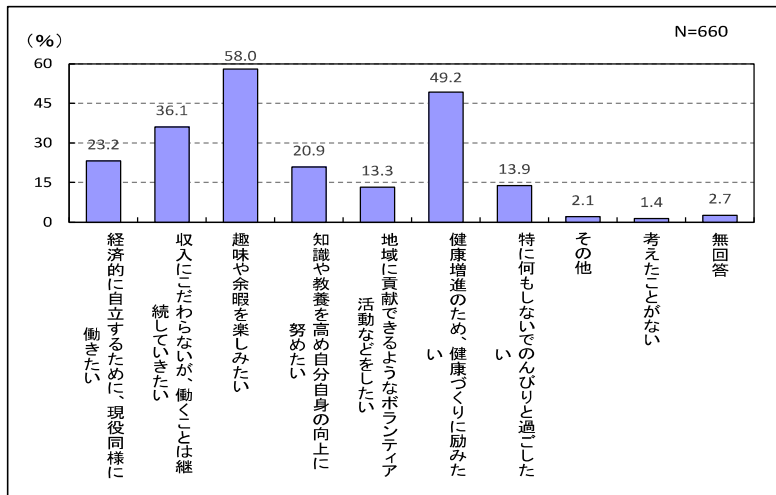


⑦高齢期の過ごし方についての意向（複数回答）

◆「趣味や余暇を楽しみたい」が58.0%

高齢期をどのように過ごしたいかについては、「趣味や余暇を楽しみたい」が最も多く、58.0%となっています。次いで、「健康増進のため、健康づくりに励みたい」が49.2%、「収入にこだわらないが、働くことは継続していきたい」が36.1%の順となっています。

「地域に貢献できるようなボランティア活動などをしたい」という人も13.3%と約1割みられ、今後の人材発掘・育成を考えると地域福祉のまちづくりへの参加を呼び掛けていく必要があります。

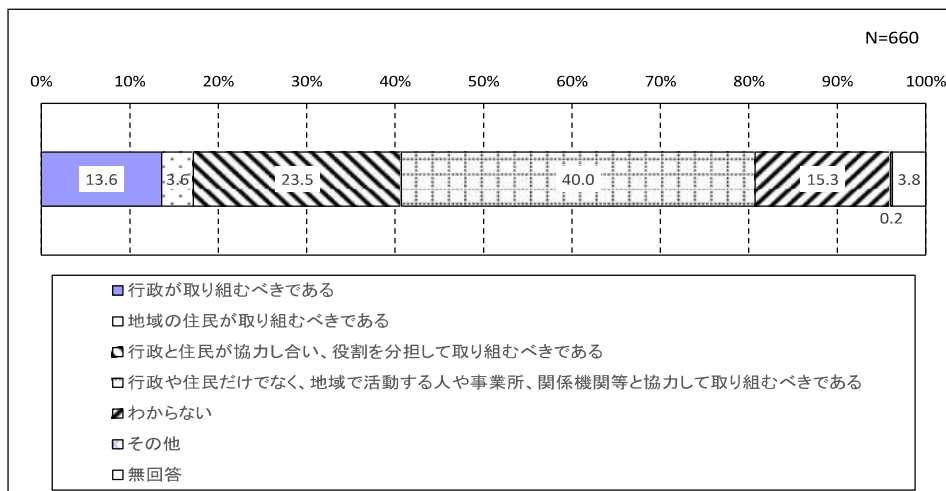


⑧地域の課題を解決する方法

◆「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が4割

地域の課題の解決方法については、「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が最も多く、40.0%となっています。次いで、「行政と住民が協力し合い、役割を分担して取り組むべきである」が23.5%となっています。

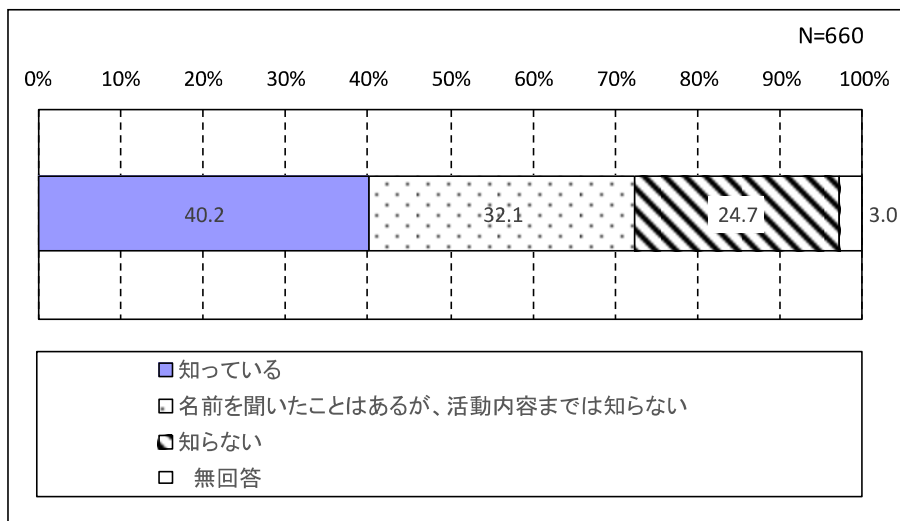
一方、「行政が取り組むべきである」は13.6%、「地域の住民が取り組むべきである」は3.6%にとどまっています。



⑨海津市社会福祉協議会の存在や、その活動内容の認知度

◆「知っている」+「名前を聞いたことがあるが、活動内容まで知らない」約7割

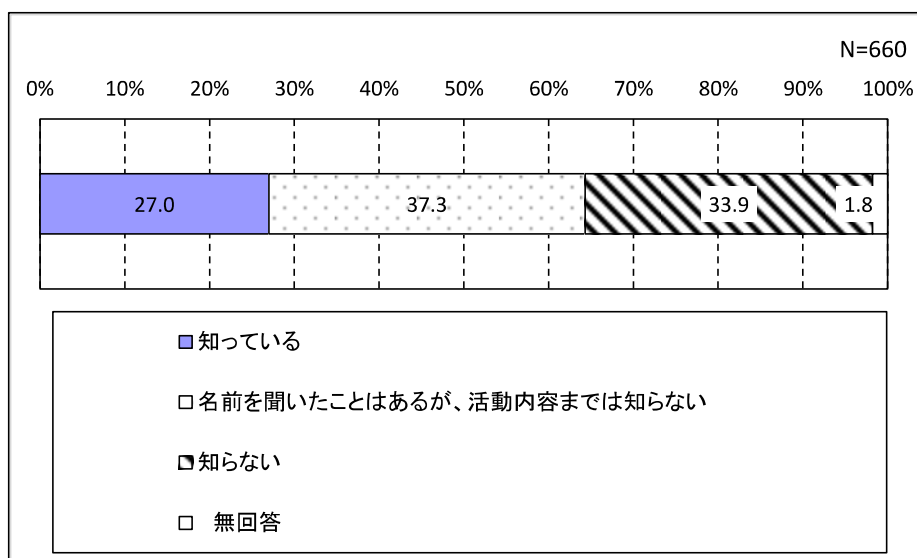
社会福祉協議会の存在や活動内容を知っているかについては、「知っている」が最も多く、40.2%となっています。次いで、「名前を聞いたことはあるが、活動内容までは知らない」が32.1%、「知らない」が24.7%の順となっています。



⑩海津市社会福祉協議会の「福祉推進委員」や、その活動内容の認知度

◆「知っている」+「名前を聞いたことがあるが、活動内容まで知らない」約6割

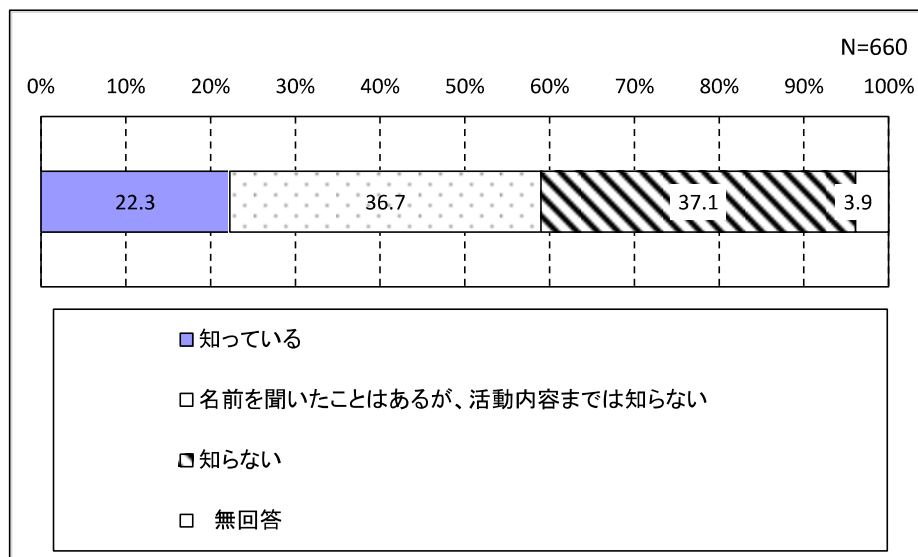
社会福祉協議会の「福祉推進委員」やその活動内容については、「名前を聞いたことはあるが、活動内容までは知らない」との回答が37.3%、次いで「知らない」が33.9%、「知っている」が27.0%の順となっています。



⑪あなたの地区の地区社会福祉協議会や、その活動内容の認知度

◆「知っている」+「名前を聞いたことがあるが、活動内容まで知らない」約6割

地区社会福祉協議会やその活動内容については、「知らない」との回答が37.1%、次いで「名前を聞いたことはあるが、活動内容までは知らない」が36.7%、「知っている」が22.3%の順となっています。

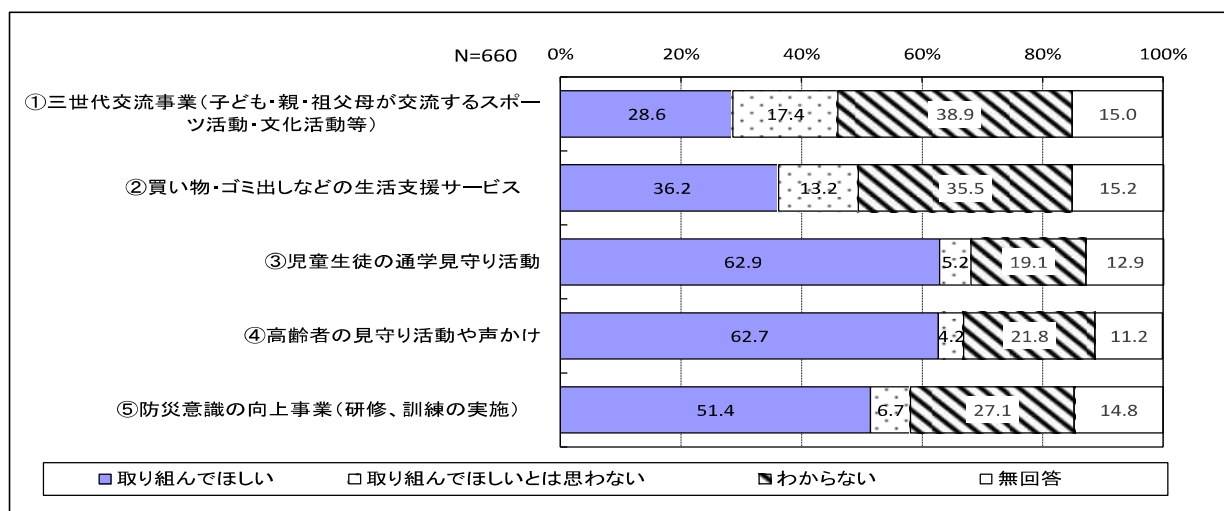


⑫地区社会福祉協議会で取り組んでほしい活動

◆「児童生徒の通学見守り活動」「高齢者の見守り活動や声かけ」が約6割

地区社会福祉協議会で取り組んでほしい活動はあるかについては、「取り組んでほしい」は、「児童生徒の通学見守り活動」が62.9%と最も多く、次いで、「高齢者の見守り活動や声かけ」が62.7%、「防災意識の向上事業（研修、訓練の実施）」が51.4%の順となっています。

一方、「取り組んでほしいとは思わない」は、「三世代交流事業（子ども・親・祖父母が交流するスポーツ活動・文化活動等）」が17.4%と最も多く、次いで「買い物・ゴミ出しなどの生活支援サービス」が13.2%の順となっています。



3 ヒアリング調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「第2次かいづあいプラン（第2次海津市地域福祉活動計画）」（平成24年度策定）の改定時期を迎え、地域で活動している団体などに地域福祉に関する意向を調査し、計画の見直しを進めていくために必要な基礎資料を作成することを目的とし実施しました。

本年同時に改定を迎えている海津市が策定した「第2期海津市地域福祉計画」（平成24年度策定）の改定に伴う団体ヒアリング調査と合わせて実施しました。

(2) 調査の実施概要

調査対象	地域で活動する団体・組織など
団体数	15 団体
調査方法	対面でのヒアリング
調査時期	平成 29 年 8 月 21 日（月）～9 月 6 日（水）

(3) 調査協力団体など

	調 査 団 体 など
1	高須地区社会福祉協議会
2	吉里地区社会福祉協議会
3	東江地区社会福祉協議会
4	大江地区社会福祉協議会
5	西江地区社会福祉協議会
6	今尾地区社会福祉協議会
7	海西地区社会福祉協議会
8	下多度地区社会福祉協議会
9	城山地区社会福祉協議会
10	石津地区社会福祉協議会
11	海津市ボランティア連絡協議会
12	NPO 法人 まごの手クラブ
13	くらしサポートセンター
14	子育て支援関係者（園、保健師、児童家庭相談室）
参考	海津市ケアサービス向上連絡会

(4) 各団体の意見

①地区社協

■課題など

◆地域の現状

- ・人とのつながりが希薄化。
- ・アパートの住人は自治会に入っていない人が多く、どういう人が住んでいるかわからない。
- ・空き家の増加。
- ・地域の行事に、若い世代の参加者が少ない。
- ・成人で働いていない子が多くなり、親の年金などで生活している。
- ・老老介護の世帯が多くなった。
- ・昼間独居、同居でも生計が別などの家庭がある。
- ・老人クラブの減少。

◆地区社協の課題

- ・地区社協のボランティアの減少。
- ・地区社協の行事をやっても、参加者が限られる。
- ・活動拠点が必要。
- ・地区社協の事業がマンネリ化している。利用者が減少している。
- ・地区社協の行事を増やすと、存続のことを考えると担い手がなくなる。
- ・事務所の維持管理。

◆移動手段がない

- ・外出困難者の増加。
- ・買物や医療機関への通院に困っている人がいる。(デマンド交通は、土日は利用ができない。)
- ・交通の便が悪い。コミュニティバスが通らず、デマンドバスのみ。
- ・デマンドバスを利用するにも、バス停まで行けない人がいる。
- ・高齢者の買物・通院の支援が必要。

◆その他

- ・自治会と地域の見守り体制について「話し合う場」がない。
- ・少子高齢化のため、子どもの見守りが必要。

■課題解決のためにできること

◆地区社協の体制の強化。

- ・地区社協運営のために、事務局に週何時間か事務員を雇い、事務関係を担当する。
- ・現在も地域活動は女性が主になってやってもらっており、大きな力となっている。
- ・地域の人材を発掘し、活用する。
- ・自治会(代表者会)と地区社協の活動を、共同化するための活動を行う。

◆地区社協の予算

- ・予算がないため、方針として、限られた予算の中でやることをやっていく。

◆地区社協の行事

- ・地区社協などの行事など集まる機会をつくる。
- ・学校の行事を利用しながら、学校と協力して事業を進めていく。

- ・健康、医療、籠づくりなどの内容で、月1回以上広域サロンを開催する。
- ・地域の伝統行事は続けていきたい。
- ・地域行事を通して人と人の信頼関係をつくるため、行事を増やし、触れ合う機会を増やしていく。
- ・参加して楽しい行事を実施し、普段から顔を合わせる機会を増やす。

◆地区社協の周知

- ・ボランティア確保のため、広報活動を積極的に行う。

◆地区社協事業

- ・生活支援サポート部が中心となり、「訪問型サービスB」の事業化を検討している。
- ・芝刈り、庭木の手入れなど、簡単な作業の支援体制の確立。
- ・最終目標として、送迎用の車を購入し、ひとり暮らし高齢者などの買物や通院への支援を行いたい。
- ・イベントばかりでなく、地域に密着した事業を行いたい。
- ・介護認定の有無に関わらず、地域の人を対象とした事業を行いたい。
- ・青パト事業が落ち着いたら、避難所の運営に協力することを考えていきたい。
- ・将来的には生活支援もやらないといけないと思っている。

◆拠点づくり

- ・いずれは、活動の拠点をもちたい。

②海津市ボランティア連絡協議会

■課題など

- ・活動するのに費用が少ない。
- ・ボランティア登録はあるが、協議会への加入が約30%であり、企業へ寄附金をもらいに行けない。
- ・会員を増やし、協議会を盛り上げたい。
- ・今後、地区社協やサロンなどの活動に関わり、発表の場、ふれいあいの場としたい。

③NPO法人 まごの手クラブ

■課題など

- ・老老介護であるが、「まだうちは大丈夫」という人が多い。
- ・ゴミ出しの依頼を受けるが、地域によってゴミ出しをする時間が決まっているため、その時間に出すことが難しい。近所の人協力があるといい。
- ・家事援助で、草むしりの依頼が多いが、面積が広いケースが多く、人材不足と時間がかかるため困っている。草刈機ではできない仕事であり、シルバー人材センターに聞いてもずいぶん先しかやってもらえない。

■課題解決のためにできること

- ・認知症の人の見守りとして、地域の店も協力してもらおうとより良い環境になる。(日々の買物で、毎日同じ買物をする人に店の人が気遣ってもらっている。)
- ・地区社協が、地域課題解決までにはなっていないが、地区社協や自治会とコラボして、共同でできることを助け合うシステムづくりができればいい。

④くらしサポートセンター

■課題など

- ・くらしサポートセンターは経済的な不安、暮らしの不安などの相談に乗っていることを計画で住民への周知することが必要である。
- ・高齢無年金の人に対する就労支援が必要となる。
- ・生活保護が多くなると思われる地域がある。介護の生活支援コーディネート事業と連携しないとけない。
- ・各福祉部署と生活困窮関係部署の連携も必須である。
- ・生活困窮者自立支援庁内連絡会議は年2回開催しているが、「地域連携会議」といったようなサービスニーズの発見や調整する会議が必要である。
- ・多重債務の問題は発見が難しいので、税務・水道などの徴収窓口との連携で発見する必要がある。
- ・引きこもりの人は、80歳代の親が50歳代の子どもの面倒をみる80-50問題が数多く表出している。
- ・世帯の貧困は、子どもの貧困を招き、次世代に連鎖する。
- ・子どもの貧困に対して、「学習支援」や「子ども食堂」など安心して利用できる「居場所」の確保が必要である。また、支援を通じ頼れる大人の存在を示す必要もある。

⑤子育て支援関係者

■課題など

(乳幼児期)

- ・親の介護と育児の両立、年の差婚、貧困家族、若年・シングル・外国人・高齢出産など、子どもや妊婦を取り巻く環境が多様化し、支援が必要なケースが増えている。
- ・定型の発達が出ていない子どもが増えている。赤ちゃんの体が硬いなど育児力の低下が関与する事例が増えた。
- ・保護者が、子どもとの関わり方や子どもとの遊びを知らない。(だっこの仕方がわからない、ミルクの飲ませ方や声のかけ方がわからないなど。)
- ・地域での子育てをしやすくするため、母子保健推進員活動に力を入れている。
- ・スマートフォンでの育児(泣き止ませる、子守りに使用)が増えている。

(保育園・幼稚園、認定こども園)

- ・0歳児の入園の増加により、年の途中から保育士の増員が必要になる。

(小学校・中学校)

- ・個別の支援が必要と考えられる児童・生徒が、増加傾向にある。
- ・要保護児童地域対策協議会を年10回程度行っている。近隣住民からの市役所など関係機関への通告は、全国的には多いが海津市はほとんどない。
- ・児童虐待は、生活基盤から見直さないと問題は解決できない。
- ・虐待には、民生委員・児童委員や母子保健推進員の協力が必要ではないか。
- ・サポートブック所有者は年々増加しているが、発達段階における関係機関の情報の引き継ぎが今後必要になってくる。
- ・不登校や相談室で学ぶ子どもが増加している。発達障がい疑いのある子も多く、二次障がいを引き起こしているため対応が必要である。
- ・外国籍の子どもが増えている。日本語でのコミュニケーションが図れない保護者もいるため対応が必要である。

<参考資料>

海津市ケアサービス向上連絡会へヒアリング調査は実施しませんでした。参考資料として、海津市がヒアリング調査を行ったものを掲載しました。

海津市ケアサービス向上連絡会

■課題などと課題解決のためにできること

- 老老介護が増えてきているが、介護している側の日々の心身の状況の把握や支援が必要。
- 高齢者虐待では、ネグレクトや経済的虐待が以前より多くなっているように思われる。
- 行政・地域と事業所が顔の見える関係性づくりが一番と考える。
- 生活困窮者へのユニット型個室施設の利用拡大→一部負担金を保険者にて負担できる体制づくり。
- 虐待などしていないつもりでも、言葉や態度に出してしまう虐待もある。普段気が付かないことを勉強会などを通して認識するとよい。
- 虐待の意味、内容（何が虐待となるのか）の知識不足による虐待がある。また、世間体を気にすることから発生する虐待への家族支援。
- 医療と介護の連携、具体的な方法が存在していないと感じる。
- 介護状態の家族に、障がいなどの子や孫がいて、ケアマネとして家族に関わらないと解決できず、その他の関係機関からの情報をもっとあったら、スムーズに解決できるケースが増えている。